

## 大人の遊びと子供の遊び

### 大人たちの遊び

農村歌舞伎が活発に行われていた旧南山御蔵入領の伝統を引き継ぐ金山町には、今も芸能が生活のなかに生きている。ここでは神楽などの芸人たちが家々を訪ね歩く光景は珍しいものではなく、山入地区では「山入歌舞伎」が毎年住民の手で上演されている。年に一度の各地区の「文化祭」では、三番叟から演歌までの様々な出し物を住人同士が披露し合う。住民が自ら作り出し、村の活気を呼び覚ますこうした大切な「遊び」を昭和期に担ったのは、地元青年団の若者たちであった。



農村歌舞伎の伝統を引き継ぐ、細木で組み立てられた仮設舞台の上の青年団員 金山町・川口 1949年



川口青年団の集会「聞け万国の労働者よ」の合唱 金山町・川口小学校講堂 1948年 / 青年団主催の敬老会 金山町・川口尋常小学校講堂 1940年 / 盆踊りのやぐら 金山町・川口熊野神社境内 戦後・詳細不明



木登りする少年たち 金山町・中川小学校 1956年頃

### 子供たちの遊び

学校は、こどもたちの学びの場としてだけでなく、世代を越えた文化活動の場としての役割を担ってきた。左頁で紹介した青年団活動の場となってきたのも、その多くは小学校である。こどもたちは身近に目にする青年団の若者たちに憧れ、家庭を持つ前の若者たちは、自分たちを慕うこどもたちに鼓舞されていた。青年団が小学校を会場に開催する敬老会では、しばしばこどもたち自身が出演者として、観客として遊びを楽しみつつ、年長者たちへのもてなしの場を盛り上げた。若者、壮年、老年……こどもたちは遊びまわるうちに、世代を繋ぐ鍵となってきたのだった。

中川小学校学芸会(推定) 中川小学校は、1981年に金山小学校に統合された 金山町・中川 昭和20年代後半 / 手製のソリで遊ぶこどもたち 金山町・川口 1967年 / 雪の芸術祭 金山町・川口中学校 1963年

